シリーズ 対馬ぐらしのススメ

対馬で暮らす移住者に聞きました！

都会を離れて地方で暮らす人が増加する中、対馬でも移住者は増える傾向にあります。島暮らしを始めた人たちに、移住を決めた理由や対馬でやりたいことなどを伺いました。

今回は、美津島町の白井さんご一家と、厳原町の立石健児さんを紹介します。

進学のために対馬を離れ、就職や結婚、子育てを行っていた白井さん一家。子どもたちがのびのび暮らすことができる環境を求め、2021年に一球さんの出身である対馬に京都からUターンしました。

福岡を中心に全国的に活動するアコースティックロックユニット「チキンナゲッツ」のメンバーとして活動していた立石さん。グループから離れた後2021年にUターンしました。現在は対馬観光物産協会に勤務し、対馬の魅力を発信する仕事を行っています。

白井さんご夫婦に聞きました

コロナ禍で考えた都会で暮らすことの価値

一球さん）大学を出て、福岡で婚礼の写真や映像を撮影する会社に就職し、転勤で京都で暮らしていました。コロナ禍で結婚式はなくなり、職を失うことはなかったものの、空いた時間は、将来を考えるきっかけになりました。このまま都会での生活を続けていくことが、本当に幸せにつながるのか。便利だが窮屈な生活よりも、より自然の中でのびのび生活できたほうが、家族にとって良いのではないかと、対馬に帰ることを決断しました。

夫が育った環境が気になった

みなみさん）都会での子育てで特に気を使ったのが「音を出すこと」でした。ある時、子どもの泣き声がすると通報され、警察が確認に来たことがあって、話し声や足音にも気を使って暮らしていました。夫と同じように、都会で生きていくことに疑問を感じていたので、夫から相談があった時、すぐに賛成しました。対馬に行くとき、離島ということで少し心配もあったのですが、夫が生まれ育った対馬での暮らしへの興味が大きかったです。

対馬での暮らしで感じたこと

一球さん）子どもたちは、広々した場所でのびのび遊んでくれ、花が好きな祖父母の影響で、親が知らない花の名前まで覚えるようになりました。両親が近くにいることで、子どもの病気の時などとても心強いです。また、両親の友人の方々もまるで自分の孫のように接してくれ、子どもたちに色々な体験をさせてくれます。

また、都会では、お金を払えばすぐに手に入る生活でしたが、対馬ではそうはいかないこともあります。「売ってないものは作る」という選択がある対馬の生活はとても良いと思います。

みなみさん）人が多い所から引っ越してきて、人とつながる機会は少なくなったと感じますが、その分、人とのつながりができるととてもうれしいです。知り合った地元の方や転勤で対馬に来た方などを自宅に招いたりして、都会ではできなかった、人とのつながりを深めています。

実家で泳ぐたくさんの鯉のぼりに大はしゃぎ

子どもの頃の夢に向かって

一球さん）対馬に帰るにあたっては、立ち止まってこれからを考えようと思いました。その中で、小学生の頃に描いた教師になる夢を思い出しました。これから対馬で暮らすにあたって、教職の道に進みたいと勉強をしています。

立石 健児さんに聞きました

音楽を通して自分の思いを伝える

高校卒業後、福岡を拠点に活動している「チキンナゲッツ」に加入しました。12年の活動期間のうち、福岡だけでなく、全国各地で活動を行ってきました。音楽を皆さんの前で披露するということは、自分たちの思いを他人へ伝えることであり、思いが伝わることによって、ファンや訪れる先の人たちが喜んでくれるというとても貴重な経験をさせてもらいました。

いつか帰るかな…。が現実に

対馬を離れるとき、いつかは対馬に帰ってくるかなと漠然と思っていたのですが、強くは思っていませんでした。音楽活動を終え、これからどうしようという時に、対馬に帰るという選択をしたのは、活動中、対馬をPRする仕事に呼んでいただいたご縁があったことは大きかったです。

2000人以上が訪れたワンマンライブ

知らなかった対馬

高校の頃、私の目には、スタジオや音楽スクールのない対馬は何もない場所に映っていました。しかし、帰郷して改めて対馬をみると、行ったことのない場所や知らないこともたくさんあったことに気づきました。これは、ツアーで全国を回った経験が、故郷に対する新たな見方を教えてくれたのではないかなと思います。

発信することの大切さ

音楽は、自分の気持ちを相手に伝えるものなので、発信することの大変さや大切さは、アーティスト時代の活動の中で強く感じています。現在、対馬の魅力を発信する仕事をしているので、そのころの経験が活かせたらいいなと考えています。人に伝わるためには、発信し続けることが大切で、SNSでの発信は簡単に始められるものの、反応がなければすぐにやめてしまいがちです。現在、対馬の情報をSNSで発信していますが、何気ない情報でも、毎日続けて行くことを大切にしています。

みんなが喜ぶ仕事を

対馬は、自然や食、歴史など、たくさんの魅力が詰まった島です。色々なものが魅力的である反面、どれをメインにしてよいのか見えないところもあります。対馬の尖った魅力を見つけ発信することで、対馬に来ていただく方を増やしていきたいと思っています。伝えることによって、対馬のことを知り喜んでくれる島外の人はもちろん、島の人たちも喜んでもらえるような仕事をしていきたいです。

引き続き！ UIターンが増えている対馬

平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度(12月末時点)
38世帯 58人	81世帯 115人	92世帯 134人	83世帯 128人	103世帯 141人	66世帯 94人

対馬へUIターンで移住する人たちは、ここ数年、100人を超えています。

移住の理由として、Uターンの方では「対馬を離れてみて、対馬の良さを再認識したから」「家業を継ぐためや家族の事が気になる」などといった理由をあげ、Iターンの方では「島での暮らしに憧れていて、対馬が自分の思う条件に合った」「釣りが趣味で、魚が豊富な対馬で暮らしたい」「観光で来島した対馬に魅力を感じた」など様々です。

対馬市では、そんな移住を考えている方や、移住された方のサポートを行っています。

引越経費支援

市外からの荷物の運搬にかかる経費

上限 20万円

※補助対象経費の3分の2以内

住宅借上初期費用支援

民間賃貸物件を借りる際の初期費用

上限 5万円

※補助対象経費の一部

子育て世帯移住支援

中学生以下の子どもを扶養している世帯

2万円 ×中学生以下の子どもの人数

住宅家賃支援

民間賃貸物件を借りる際の家賃

上限 3万円 ×3月分

※家賃月額の2分の1

奨学金返還支援補助金

高校・大学などにおける奨学金の返還額

年間上限 24万円 5年間まで

ふるさと就職奨励補助金

学校卒業後2年以内の方で島内企業に就職して1年以上経過した方

10万円

結婚移住奨励補助金

婚姻届受理日前後1年以内に（夫婦または）夫婦のいずれかが市外から移住された方

5万円

移住の下見で来島する補助や、お試し住宅の提供、空き家バンクの整備なども行っています。

詳しくはこちら!

島外でも島暮らしに関するご相談をお受けしています

各地で行われる移住イベントなどで、移住する際の手続きや補助などのご相談をお受けしています。

また、対馬市が福岡で開催している移住相談のイベントでは、ハローワークや島内企業の担当者にも参加いただき、対馬での生活をスタートさせるためのサポートを行っています。

地方移住が特別でなくなった今、移住先に対馬を選んでもらうために対馬市では、島の魅力を最大限お伝えできるよう、様々な取り組みを行っていきます。

問い合わせ　地域づくり課内「しまぐらし応援室」　☎0920(53)6111